

# NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

## ORMZ ニュース第 55 号 (H28.4.29)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



**はじめに** 4月14日夜、熊本地震が発生し、多くの方が被災されました。宮崎市内でも震度4の揺れを感じましたが、さらに16日にも大きな地震が発生し、今だ、多くの方が避難されています。どうか、健康に十分注意され、早く復興が進むことを心からお祈りします。

ザンビアの首都ルサカでも、停電、断水が日常的となり、活動は大変さを増していますが、皆様のご支援をいただき、山元香代子先生はじめ現地スタッフ、一生懸命、辺地に住む人々の支援に取り組んでいます。

今回は、山元香代子先生からの現地報告をお伝えします。

### 会の経過報告

- ・平成28年4月4日、役員の変更等届け出(全員再任)を宮崎市及び法務局に届け出、登記の変更を行ってきました。また、4月12日には宮崎市に法人市民税の減免申請を提出してきました。
- ・年度替わりの主な手続きはこれで終了です。

### 現地活動報告 (ザンビアより山元香代子先生)

みなさま、熊本・大分で非常に大きな地震がありました。心からお見舞い申し上げます。

私は飛行機の切符がとれず、4月7日にザンビアに戻りました。雨季も終わり、過ごしやすい気候です。電気は相変わらず、1日8時間、14時間、8時間の繰り返しで計画停電が続いています。水の出は悪く、水圧が低く、温水器は全く使えません。先週末は24時間以上断水が続きました。分量の水を5Lのペットボトルに貯めてありますので、不便ですが何とかやっています。

ルサカではコレラが発生し、亡くなった方は数人おられましたが、下火となり、郡保健局と国境なき医師団が現在コレラワクチンの接種を実施しているようです。また、8月11日に大統領選挙が予定され、あちこちで小さな小競り合いがあり、またルワンダ人やコンゴ人などによると考えられているザンビア人の殺害事件が続いていて、治安が悪くなってきています。

4月13日、ルアノの巡回診療は、患者数198名と多く、診療が終わったのが18:30を過ぎていました。携帯電話の明かりで何人かの患者は診療しました。受付はしたけど、診療を受けずに帰宅した患者もいたようでした。マラリアの患者が83名と多く、検査陽性率は52%でした。

三重大研修医1名、三重大医学生4名、藤田保健衛生大医学生2名が同行し、見学しましたが、てんやわんやで忙しい中、十分な説明もできず、受付や薬剤の配布などいろいろとお手伝いいただきました。ありがとうございました。



ルアノに向かう途中で呼び止められ、6歳のやけどの子供を治療しました。熱湯による左のおしりのやけどでした。洗浄し、抗生剤を投与しましたが、やけどが深く、ヘルスセンターに行くように勧めましたが母親に拒否されました。最近マラリアの患者が多く、チペンビヘルスセンターでは、3月末の1週間で5人の子供がマラリアで亡くなったそうです。

そういう話を聞いているのでヘルスセンターへ行くのを拒否したのではないかと説明を受け、翌日14日、再度プロジェクトの車を出し、コミュニティコーディネーターのシバンダさんに同行してもらい、やけどが深く、植皮が必要かもしれないと説得して、郡病院に搬送しました。

ルアノではまた親が留守にしている間に、6歳の子供が首都ルサカでもらってきた薬を兄弟で分け合って食べて、次々と吐き出して、1人の子供が亡くなるという事故も起こっています。やけどやこのような事故は防げるはずですので、巡回診療を開始する前などにコミュニティヘルスワーカーなどを通じて更なる注意喚起をしていこうと思います。

前回の3月24日の診療から4月13日までの間に4人のコミュニティヘルスワーカーが199名のマラリア検査を実施し、142名が陽性（陽性率71.4%）で、マラリアの薬を処方していました。分量のマラリアの薬や検査薬は渡しているのですが、マラリアの患者が多く、薬が足りなくなり、コミュニティヘルスワーカーが自転車ヘルスセンターや他地区の巡回診療でプロジェクトの車が通る道沿いまで取りに来ます。往復で何時間もかかる道のりです。先日はエベリンという女性のコミュニティヘルスワーカーが取りにきていました。彼らの活動に対しては1クワチャの報酬もなく、全くのボランティアです。ほんとうに頭が下がります。彼らがんばってくれているので活動が続いているのだと痛感しています。

ルアノの診療をする建物は、四方の壁がシロアリによる茶色の筋だらけになっていました。段ボール箱に入れていた患者のカルテはあちこちシロアリに食われて、虫食いができています。プラスチック製のコンテナにカルテを入れるようにしましたが、カルテの数が4000を超えて（人口から考え、自分の番号札をなくし、重複して登録している人も数多くいます）、コンテナのスペースも限られてきています。カルテをしまうのに手ごろなこの種のコンテナはルサカのどこを探しても見つからず困っています。次回デッキブラシなどを持っていき、壁の大掃除をしてもらう予定です。

毎日忙しくしています。どうぞみなさま、お元気でお過ごし下さい。

## 現地活動報告Ⅱ（ザンビアより山元香代子先生）

みなさま、いかがおすごしでしょうか。まだ多くの方々が避難所で生活しておられると聞いています。どうぞくれぐれもお大事にされて下さい。

こちらは雨も全く降らず、いいお天気が続いています。巡回診療へ向かう道路は土ぼこりがひどくなってきています。停電は相変わらず、水のちょろちょろと出る時間がなぜか少し長くなってきました。

4月20日、ニャンカンガの巡回診療は、患者数302名と非常に多く、診療が終わったのは20:00前でした。電気もないところですので真っ暗で、2台のランドクルーザーのライトをつけて診療しました。マラリアの患者が188名と多く、検査陽性率は65%でした。5歳未満の子供は62名がマラリアで、検査陽性率は76%でした。数日前に4歳の子供がヘルスポストでマラリアの薬をもらったが、帰宅した



ムレタ準医師の診察風景

\* 壁の様子はシロアリの跡



シロアリ被害にあったカルテ



直後に亡くなったと聞きました。3月30日の巡回診療終了時に大人80人分の抗マラリア薬をおいてきたのですが、コミュニティヘルスワーカーに尋ねると2週間前に薬は使い切ったとのこと。薬が無くなり、その旨の電話連絡をもらえば薬は届けるのですが、今回はそうした配慮がなされなかったようです。残念です。

3人のボランティアが他のNGOの活動見学に出ていて、わずかのボランティアしか残っておらず、助産師のチブリカさんと三重大研修医の先生に体温・体重・血圧測定をお願いし、運転手のテンゴさんがマラリア検査を手伝い、受付はスルさんが一人でおおわらわでした。また1800冊ある患者カルテを順番に整理しておらず、カルテ探しにたいへんな時間がかかり、結局他人のカルテを持って受診している人もいました。通訳してくれるボランティアもいなく、英語が喋れる患者さんをお願いしました。マラリアで体がきつく、土の上に寝転がっている子供たちもあり、名前・年齢・体重だけの記載で、正式な受付をせずに診療をしました。本当にてんやわんやの状態、診療開始から終わるまで、飴玉を準医師のムレタさんと1個ずつ食べて空腹をしのぎましたが、20:00頃に終わった時は、食事をとる気にもなれず虚脱状態でした。三重大研修医の先生には患者診察にも協力していただいて、本当に助かりました。ありがとうございました。

井戸を見に行きましたが、フェンスの間隔が広く、牛などが簡単に中には入れる状況でした。また井戸水の排水口の穴が掘ってなく、淀んだ水たまりができていて、蚊の繁殖源になりそうでした。村長にフェンスと排水口の件、再度説明しました。建設中の建物も2つのドアがまだ取り付けられておらず、床も砂だらけで、でこぼこでテーブルがきちんと置けません。ニャンカンガで活動を始めて2年近くになりますが、このようにコミュニティの協力が十分ではありません。何とか状況を改善するために、29日にボランティアとの話し合いを持つ予定です。

マラリアがとても多くなっているので、4月22日には、ムレタさんが診療を行っているルカタ地区で啓発活動を実施しました。いつものドラマグループ7名が歌と踊り、寸劇でマラリアや下痢の予防などについてわかりやすく説明しました。ルカタ地区では近くにダムがあり、マラリア蚊帳で頻繁に魚とりがおこなわれているとのことでした。蚊帳には蚊が死滅するように薬品処理してありますので、その蚊帳で魚とりをすることは水質汚染につながりとても危険なことです。蚊帳での魚とりをやめるようにドラマグループに説明してもらいました。今回は200人近い住民が集まり盛会でした。また、三重大研修医・医学生、藤田保健衛生大医学生7名も参加し、とても興味深く見学していました。



今がマラリアのピークだと思います。とにかく十分量の抗マラリア薬と検査キットを巡回診療の後にコミュニティヘルスワーカーに残さなくてははいけません。通常大人一人分の抗マラリア薬 18 クワチャを 10 クワチャで購入できる薬局を見つけ、また、いつも薬を購入する薬局では 25 人分のマラリア検査キット 100 クワチャを 80 クワチャに値切って購入できるようになりました。

1 回の巡回診療に抗マラリア薬 300 人分、検査キット 750 人分を持っていきます。大きな箱で大量に購入しても飛ぶようになくなってしまいます。早くマラリアのピークが過ぎてくれることを祈っています。(注：1 クワチャが約 11 円)

忙しい毎日ですが、元気に活動しています。

みなさま、どうぞお元気で過ごし下さい。

### **賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について**

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は 1 月から 12 月です。賛助会費 (個人一口 5000 円、団体一口 10000 円) 及びご寄附 (金額は問いません) のご協力をよろしくお願ひします。

・入金を確認しました際には、日高からその旨メール (又は郵便) を差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付 (賛助会費含む) いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書 (賛助会費も寄附金と同様税控除の対象) をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 ( [info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp) ) までご連絡ください。

・インターネットからも振込みができます。詳しくは各銀行等にお尋ねください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9      口座番号 126351

加入者名   :   NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名   :   NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

\* 昨年は大口の寄付が多数あったため、井戸掘削や車の購入ができました。今年は、少し厳しいかなと考えています。節約しながら活動を進めていく予定です。

以上

どうぞご支援のほどよろしくお願ひします